ルニ此ノ時日ヲ計算スルニ延期出願日數ヨリ超過スルコト猶七十日ナリ依リテ之ヲ條約書ニ照シ違約金五百圓ヲ請負人ヨリ收ムヘキ筈ナレトモ延引ノ理由モ亦止ヲ得サルヲ以テ特ニ之ヲ免除スルコトトセリ

一、三月二十四日明治二十年度艦船修理費豫算決定シ此度令達アリタレハ該額ノ内左記ノ通リ各所ニ分配セルヲ以テ本所ニ於テモ該割當額ニ超過セサル樣注意セラレ度キ旨伊藤艦政局長ヨリ通知セリ

二十年度艦船修理費豫算決定額

一金三十二萬圓

内

一金二十六萬圓　横須賀造船所

一金四萬五千圓　小野濱造船所

一金一萬五千圓　各艦航海先ニ於テ修理

一、三月二十四日横須賀鎮守府今井建築部長ハ本月二日付ヲ以テ本所舊石造官舍二棟幷ニ舊天主堂一棟共金千五百五十一圓七十一錢七厘ヲ以テ鎮守府ニ讓渡スコトニ協議成立セシカ猶又軍港司令部廳モ鎮守府建設地土工ノ爲メ障害トナルヲ以テ該建物代價ハ前記千五百五十一圓餘ノ内ニ籠ルモノトシ本所ノ財産簿ヲ整理スルコトニ交渉シ來レリ依リテ本所ニテハ右ノ趣旨ヲ參考シ更ニ建築物價額調書ヲ訂正シ本日之ヲ建築部ニ通知セリ

一、三月二十九日海軍省ハ本所ニ於テ構成セル裝甲水雷艇ヲ小鷹ト命名スル旨部内ニ布達セリ

一、四月七日造船科長ハ艦船ノ新造ニ主任者ヲ置クコトトシ其規定ヲ定ムルコト次ノ如シ

第一條　各新造艦船ニ專任者一名ヲ定ムルコト

第二條　各新造艦船ニ專任者ヲ補助スル爲メ英人一名ヲ置キ專任者ヲ補佐セシム該英人ハ擔當ノ工事ヲ勉勵シ充分己ノ技術ヲ實施シテ以テ其工事ヲ速成セシメ且ツ伍長幷職工等ヲシテ造船一般ノ手術及鐵鋼等取扱方ニ熟達セシムル樣尤モ注意勉勵スヘシ

第三條　專任者ハ擔當艦船ノ工事ハ總テ英人ニ協議ヲ遂ケテ實施スヘシ

第四條　若シ工事ノ粗漏ナルカ又ハ伍長以下職工手術上不滿足ノ事アルトキハ英人ハ專任者ト共ニ其ノ責ニ任スヘシ

艦船新造主任ヲ定ム

一、四月九日昨年十月中鍊鐵汽鎚据付所新築工事ヲ清水清吉ナル者金一萬四千七百七十圓九十七錢九厘ヲ以テ請負ヒ目下築造中ナルカ表面ノ煉瓦築造ニ赤色煉瓦ヲ使用スルヨリモ黑色煉瓦ヲ使用スル方極メテ堅固ニシテ保存上モ亦赤色ノモノニ勝ルヲ以テ表面ノ部ヲモ黑煉瓦ニ改ムルコトトスレハ最初ノ豫算ヨリモ約三百二十七圓二十九錢增額ヲ要ス依リテ清水清吉ノ請負金額ヲ更正シ又工事日限ヲ改約スルコトトシ度キ旨本日建築科長ヨリ所長ニ交渉ノ上同十一日決定セラレタリ

一、四月十二日艦政局ハ明治二十年度造船費豫算承認濟ノ金額ヲ通知セリ其中本所ニ於テ受取ルヘキ金額ハ金九十一萬七千七百六十六圓ナリ

一、四月二十九日去ル十五年四月職工組合内則ヲ規定シ以來實施シ來リシカ組合ヲ分ツテ艦船等ニ派出工業ニ從事セシムルトキ責任者ナキ爲メ自然工業粗漏トナルヲ以テ下締人ヲ置キ伍長ニ代リ取締ニ從事セシムルコトトスル爲メト又一面ニハ先般本所官制條例等ノ變更ニ伴ヒ修正ヲ要スル點モ少カラサルヲ以テ更ニ組合内則ヲ規定シ實施シタキ旨案文ヲ添ヘ去ル三月三日横須賀鎮守府ニ伺出テシニ本月二十五日ニ至リ修補ノ上認許セラレシカハ本日ヲ以テ之ヲ實施スルコトトセリ

職工組合内則

第一章　總則

第一條　職工組合ハ工場諸般ノ整頓ヲ主トシ工業ニ澁滯ナク工夫以下ノ工藝ヲ進メ平等ニ規則ヲ遵奉セシムルヲ以テ本旨トス

第二條　工夫以下ノ日給多寡ヲ酌量シ一組凡ソ五人以上二十人以下ヲ以テ程度トナシ工場長ヲシテ組合ヲ編制セシムルモノトス

但工業ノ模樣ト工場總員ノ都合トニ因リ本條ノ程度ニ從ヒ難キトキハ其人員ヲ增減シ或組々ノ入替ヲナス等工場長便宜處分スルヲ得

第三條　一組ニ伍長一人下締若干人ヲ置キ以テ其組合ノ取締ヲナサシム

第四條　運搬夫其他組合ノ編制アル者ハ總テ此内則ヲ適用スルモノトス

第二章　伍長

第五條　伍長ハ技生及工夫長ヲ以テ之ニ充ツ伍長缺員アルトキハ下締ノ工夫長ヨリ拔擢シテ伍長心得ヲ命スルコトアルヘ

シ

第六條　伍長ハ工場長ヨリ分付セラレタル組合ノ取締ヲ擔任スルノ職務タリ故ニ首トシテ自己ノ行狀ヲ正ウシ工場長及工場掛官ノ指揮ニ從ヒ組合員ヲ誘導シテ規則ヲ遵奉セシメ過誤アレハ之レヲ矯正シ相與ニ工業ニ勉勵スヘキモノトス

第七條　伍長ハ一工場內同職ノ者日々協議ヲナシ彼我擔當事業ノ繁緩ヲ酌量シ甲組合繁劇ナル時ハ工場長ニ具狀シテ乙組合之レヲ補助シ緩急相助ケ工業ニ澁滯ナカラシムヘシ

但本條補助中取締ノ責任ハ總テ甲組伍長ノ擔當タルヘシ

第八條　伍長ハ組合ノ者工業ノ便益ヲ發明スルカ又ハ技術拔群ニシテ勉勵比類ナキカ若クハ工藝拙劣ニシテ進步セス或ハ怠惰ナルカ又ハ敎誨ニ從ハサルモノ等アルトキハ可否共速ニ之レヲ工場長ニ具狀シ且ツ常ニ組合員ノ素行ニ注意シ見聞ノ次第ニヨリテハ同シク工場長ニ具狀スヘシ

第九條　伍長ハ組合員勤怠可否ヲ具狀スルニ當リ私情ヲ挾ミ事實ヲ蔽フカ如キ所爲アルヘカラス若シ私曲ノ事發露スルトキハ相當ノ處分ヲ免ルヘカラス

第十條　伍長ハ組合中ニ於テ使用スル器械要具類ニ注意シ其毀損錯雜等ハ勿論工業用品ノ浪費アラサル樣注意スヘシ

第十一條　伍長ハ組合員ニ於テ諸願、伺屆等ヲ差出スカ又ハ出場中發病被傷スルカ或ハ臨時退場ヲ請フモノアルトキハ詳ニ其情實ヲ糺シ書面アルモノハ之レヲ添ヘテ工場長ニ申出ヘシ

第十二條　伍長ハ組合中怠惰又ハ不正ノ所爲アルトキハ本人ト共ニ其責ヲ免ル可ラス

第三章　下　締

第十三條　下締ハ工場長之レヲ選定シ組合中ニ若干名ヲ置クヲ得

第十四條　下締ハ伍長ヨリ分布セラレタル組合員ノ取締ヲ負擔スルノ職務タリ故ニ首トシテ自己ノ行狀ヲ正フシ工場長以下伍長ノ命令ニ從ヒ其ノ負擔ノ人員ヲ誘導シテ規則ヲ遵奉セシメ過誤アレハ之レヲ矯正シ相與ニ工業ニ勉勵スヘキモノトス

第十五條　下締ハ他ノ組合繁劇ニシテ其ノ負擔ノ人員ヲ率キ之レヲ補助スルトキハ他ノ伍長ノ指揮ニ從ヒ其ノ業務ニ服スヘシ組合ノ自他ヲ以テ異同アルヘカラス

第十六條　下締ハ常ニ其ノ負擔スル所ノ人員勤怠行狀ニ注意シ見聞ノ次第ニヨリテハ可否共伍長ニ開陳スヘシ若シ私曲隱蔽ノ事迹發露スルトキハ相當ノ處分ヲ免ルヘカラス

第十七條　下締ハ其ノ負擔ノ人員ニ於テ使用スル器械要具類ノ毀損錯雜等之レナキ樣注意スヘシ

第十八條　下締ハ其ノ負擔ノ人員中怠惰又ハ不正ノ所爲アルトキハ本人ト與ニ其ノ責ヲ免ル可ラス

第十九條　下締ハ其ノ組合ノ伍長缺席スルトキハ日給多額ノモノ其ノ代理ヲナスヘシ

第四章　組　合　員

第二十條　組合員ハ誠實ニ規則ヲ遵奉シ伍長及下締ノ指揮ニ從ヒ協同一致其ノ職業ニ勉勵スヘシ

第二十一條　組合員ハ他ノ組合事業繁劇ニシテ之レヲ補助スルトキハ他ノ伍長及下締ノ指揮ニ從ヒ其ノ業務ニ服スル等組合ノ自他ヲ以テ異同アルヘカラス

第二十二條　組合員ハ其ノ組合中何事ニ限ラス心得違ノモノアラハ互ニ忠告スヘシ若シ忠告ヲ用ヰス其ノ非ヲ遂ケントスルモノアルトキハ直ニ下締或ハ伍長ニ申告スヘシ

第二十三條　組合員ハ其組合中怠惰又ハ不正ノ者アルトキ互ニ之ヲ隱蔽シ他日發露スルニ於テハ本人組合員トモ相當ノ處分ヲ免ル可ラス

第二十四條　組合員ハ其ノ組合ニ於テ使用スル器械要具類ヲ鄭重ニ取扱ヒ互ニ注意保護スヘシ

第二十五條　組合員ハ伍長及下締缺席スルトキハ工場長ノ指揮ニ從ヒ日給多額ノ者臨時代理ヲナスヘシ

此ノ外ニ著帽心得添フ

一、四月二十九日本年三月伺出ノ上許可セラレシ本所營業收入法改正ニ付キテ諸貸渡料ハ實費額ヲ豫定シ屆出ヘキ旨指令セラレシカ諸貸渡器具機械家屋等ハ其貸渡料ヲ收入セス無代價ヲ以テ貸渡シ只該機械等使用ノ爲メ本所職工人足ヲ使用スルトキハ現ニ使用セル人夫ノ平均實給又ハ物品ヲ要スルトキハ其原價ヲ以テ收入スル者ナルニ依リ豫メ其實費額ヲ決定スルコトハ不可能ノ事ト云ハサル可カラス只小蒸氣船航海費ニ至リテハ航海每ニ原費ニ不同アルニ依リ不平均ヲ防ク爲メ其實費平均割ヲ標準トシ左記ノ通リ豫定スルコトトセル旨横須賀鎭守府ニ屆出テタリ

小蒸氣船部內貸渡實費平均豫定額

第二横須賀丸　航海中一時間ニ付金三圓十七錢　滯泊中同上ニ付金四十六錢

十馬力船　航海中一時間ニ付金一圓五十錢　滯泊中同上ニ付金三十三錢

二馬力半船　航海中一時間ニ付金五十二錢　滯泊中同上ニ付金二十四錢

二馬力鐵船　航海中一時間ニ付金二十錢　滯泊中同上ニ付金十錢

右ハ實際航海及滯泊ノ現時間ニ依テ區分シ實費一時間ニ當リ豫定額ノ割合ヲ以テ收入ス

但航海用意迄ニテ停止ノ時ハ依賴者ノ都合或ハ風波ノ事故ニ係ラス其時間ニ應シ航海費ヲ收入ス機關等ノ損所ニ依ツテ停止ノ時ハ此限ニアラス

一、四月本所ハ工夫以下定員表中左記二工場ノ定員ヲ改正セリ卽チ左ノ如シ

日	附	工	場	改	正	定	員	舊	定	員	記	事
十六日	機械科旋盤工場						一六五			一五〇		
同	製罐工場						三〇〇			三一五		

一、五月三日去ル十七年十一月二十九日愛宕艦ノ製造入費豫算總額金十六萬七千圓ヲ要スル旨上申ノ末工事ニ著手セシカ本年ニ至リ金五萬圓ノ增額ヲ要スルヲ以テ去三月八日鎭守府ニ申出テタリ依リテ鎭守府ニ於テハ右ノ事情ヲ海軍大臣ニ伺出テ認許ヲ乞ヒシカ本省ニ於テハ當初ノ豫算ヲ金十六萬七千圓ニ組ミタル精神ニ對シ五萬圓ノ不足ヲ生シタル原因ヲ徵スルコトトシ一旦上申書ヲ却下セリ依リテ鎭守府ハ本所ニ命シ其ノ原因ヲ調査セシメシニ本邦ハ造船材料ニ乏シキ爲メ材料ハ多ク海外ニ注文スルモノナルカ其ノ到著品中屢々不良ノモノアリテ引換ヲ要スルモノアリ商人ノ期限ヲ誤ルモノアリ著手後半途ニシテ改正又ハ中止等ノ件モ少ナカラス且修理艦船ニ緩急アル爲メ新艦使用ノ職工ヲ增減シ又ハ都合ニ依リ殘業ヲ行ヒ又ハ職工ノ工事ニ不馴ナル等種々ノ原因アリテ遂ニ豫算ヲ超過スルニ至リタルモノニシテ本來該豫算ハ成ル可ク節減ノ趣意ニ依リ豫算額内ヲ以テ支辨スル目的ナリシカ本所ニ於テハ鐵船製造ハ今回ヲ以テ最初トスルニ依リ遂ニ斯ノ如キ事情トナレルモノナルコトヲ知レリ故ニ鎭守府ハ四月七日ヲ以テ再ヒ右ノ事情ヲ具申セシニ本日ニ至リ認許ヲ得タリ

一、五月三日昨十九年九月十七日本所ニテ組立ニ著手セシ裝甲水雷艇ノ建造事業ハ最初金六千百圓ノ豫算ニヨリ從事セシカ材料運送ノ法ヲ誤リ材料ニ狂ヒヲ生シタルト船體内外ヲ漆塗トセルコト及該事業ニ不熟練ナルコト等ニ依リ十九年十二月マテノ調査ニテ豫算ヨリ金二千百三十四圓餘ヲ超過スルニ至リ本年二月ノ調査ニテハ本年一月以降竣工マテニ此ノ上猶金四千六百六十四圓餘ヲ要スルコトナレリ依リテ本所ニ於テハ本年一月右事情ヲ鎭守府ニ上申シ不足額ヲ要求セシカハ鎭守府ハ海軍省ニ右ノ事情ヲ伺出テシニ海軍省ハ容易ニ許ササリシカ遂ニ本日ニ至リ金二千百三十四圓餘ヲ三月附ニテ金四千六百六十四圓餘ヲ四月付ニテ下附ノコトニ指令セリ

愛宕艦製造豫算ノ增額

一、五月十九日艤裝科附屬ノ泥浚船ハ第一、第二、第三ノ三隻アレトモ此内使用ニ適スルモノハ第一號ノミニテ第二、第三兩船ハ大ニ破損シ居リ到底使用ノ見込ナシ依リテ本所ハ此二隻ヲ拂下ケ其金額ヲ興業費ニ償却シ更ニ代船製造費トシテ下附ヲ上請スルコトトシ横濱港黑瀧長次郎ナルモノニ拂下ケタリ

一、五月二十七日海外幷ニ獨逸國ニ於テ本邦諸官衙ノ所要品購求方及官費留學生學費授受ノ件ニ付左記ノ通リ外務大臣ヨリ海軍大臣ニ照會アリシ趣ヲ以テ本省ノ移牒ニ依リ本日横須賀鎭守府ヨリ本所ニ通牒セリ

一　從來海外駐在ノ帝國公使館幷ニ領事館ニ於テ本邦諸官衙ノ依賴ニ應シ其ノ所要品ノ購求及官費留學生ノ學費授受等ニ關スル事務ヲ取扱ヒ來リシカ右ノ如キ事務追々多端ニナリ加フルニ館員小數ナルヲ以テ公使ノ常務繁劇ノ際其ノ取扱方自ラ遲延ニ涉リ依賴者ノ望ヲ滿スコト能ハサルノ慮モアリ就テハ右物品購買等ノ事ハ本邦ヨリ歐米諸國ヘ派遣セル商社ノ支店若クハ直ニ外國商社ニ依囑シ送金ハ正金銀行ノ支店ニ命スル時ハ却テ輕便ナレハ爾後右ノ如キ依囑アル時ハ事柄ニヨリ是非公使ノ手數ヲ要セラルヘキ分ハ格別ナレトモ成ルヘクハ前記ノ如キ商社ヘ下命相成度旨外務省ヨリ本省ヘ照會アリ

一　從來獨逸國伯林ニハ帝國ヨリ派遣セル正式領事館ノ設ナキヨリ本邦諸官衙ノ所要品購求及留學生學費ノ授受等ニ關スル事務ハ該府駐在帝國公使館ニ於テ其ノ依賴ニ應シ取扱ヒ來リシカ今般該府在勤ノ名譽領事カル、ウオルフソンニ命シ正式領事ノ資格ヲ以テ右樣ノ事務ヲ取扱フコトトナシタレハ爾後此ノ如キ購求事件幷ニ學費轉送等ノ事ハ前文ノ通リ成ルヘクハ本邦ヨリ歐米各國ニ派遣セル商社ノ支店若クハ外國商社ヘ直接ニ購求スル物品ヲ依賴シ送金ハ正金銀行ノ支店ヘ命スル方便利ナレトモ其ノ事柄ニヨリテハ公使ノ手數ヲ要セラルヘキ場合ニハ獨逸國ニ在テハ前領事ヘ依賴相成樣外務省ヨリ本省ヘ照會セリ

艦船修理ノ緩急ニ關スル方針

一、五月二十八日艦船ヲ修理スル目的ニ就キテ樺山海軍次官ヨリ左ノ通リ訓令アリシ旨横須賀鎭守府ヨリ達セラレタリ

艦船ヲ修理スルニハ應用ノ目的如何ニヨリ修理ノ輕重緩急ヲ定メサレハ費額豫算シ難キニ至ル依リテ各艦ノ應用ヲ左記ノ

八重山艦ノ建造

通リ區別シ甲乙ハ戰役ニ服セシムヘキ目的ヲ以テ完全ニ修理ヲ加ヘ丙ハ戰役ニ服セシムルコトヲ以テ目的トセス固有ノ艦力ヲ保持シテ左記記載ノ用ニ應スル丈ケニ修理スルヲ目的トシ艦船修理費中ノ冗費ヲ省キ勉メテ甲乙艦船ノ維持ヲ滿足セシムヘキ樣注意施行スヘシ

甲號艦船

高千穗、浪速、扶桑、金剛、比叡、筑紫、葛城、大和、武藏、天龍、海門、天城、愛宕、摩耶、鳥海、磐城

乙號艦船

小鷹、第一震天、第二震天、水雷船、水雷小蒸氣

丙號艦船

(一)航海練習、筑波、龍驤、風帆練習船二隻

(二)內海航行其他　日進、清輝、孟春、鳳翔

千代田形、石川、春日、迅鯨、淺間、富士山、東、舊攝津、舊肇敏、舊乾行

一、五月三十一日海軍省ハ本所ニ於テ千六百噸報知艦一隻製造セシムル件ニ付昨年六月幷ニ本年四月ヲ以テ訓令ヲ發セシカ今般同艦ノ機關部ハ海軍省顧問ベルタン氏ノ意見ニヨリ英國ニ注文製造セシムルコトトシ本所ニ於テハ船體製造ノミ取計フヘク機關部ヲ英國ニ注文ノ件ハ艦政局ニ承合スヘキ旨更ニ訓令セリ

一、五月築造工場職務取扱順序三十九條ヲ規定ス就中主ナル箇條左ノ如シ

第一條

石垣構造諸建家地形總テ土木一切ニ關スル工事ハ本科ノ達ニヨリ其他管掌工業ニ付各科工場及倉庫ヨリ證書ヲ以テ注文アル時ハ工場受附簿ニ本紙ノ號名及新築修理ノ顚末ヲ謄寫シ其ノ需用品ハ倉庫ヨリ受取リ而シテ起工シ其ノ類屬品等他工場ニ渉ル分ハ成規ノ注文票ニ認メ檢印濟ヲ捺シ之ヲ注文シ其ノ工事全備落成ニ至ル迄負擔スルモノトス

第二條

本科ヨリ工事價額豫算スヘキ達シアル時ハ其ノ山地幷ニ海底ニ及ヒ實測共科長ノ命ニ遵ヒ圖面ヲ要スルモノハ之ヲ製シ他工場ニ渉ル價額ハ主務工場ヘ依賴シ而シテ其ノ仕樣大略ヲ記載セル豫算書ニ工場長捺印ノ上本科ヘ差出スモノトス

鑄造工場事務取扱順序

第三條

構造及建家地形工事ハ本科ノ達シヲ受ケ起工シ新規開鑿地形ハ現場ノ位置高低等科長ノ檢閲認可ヲ受ケ確定ノ上著手スルモノトス

第八條

諸工事ニ要スル木石材及其他諸品ノ檢査ハ計算課買賣掛ノ通告ニヨリ檢査シ其ノ報告書ヲ認メ檢査人幷ニ監督人捺印シテ科長ノ檢印ヲ受ケ同掛ヘ報告スルモノトス

其他職工ノ出業退業ノ際掛員ノ檢査及注意、外職工入業ノ手續等ヲ明示ス

一、五月鑄造工場事務取扱順序四十八條ヲ規定ス就中主ナル箇條左ノ如シ(鑄造工場事務取扱順序)

一　前條諸製造品科掛ヨリ注文ヲ受クル時ハ圖面幷ニ見本ニヨリテ諸機械ヲ製シ該工場使用ノ物品ハ倉庫ヨリ受取リ又諸製造ニ關係ノ器具等ハ直ニ其ノ主務掛ヘ注文シ落成ノ上ハ之ヲ檢査シ送付簿ニ記載シ注文元ヘ送附スル際其ノ量目ヲ掛ケ改メ地金報告票ヲ以テ直ニ計算課ヘ報告スルモノトス

一　其他就業工夫ノ規定及技術ノ巧拙ニヨリ進退スルコトノ規定アリ

一、五月本所ハ造船機械兩科製圖工場職工定員ヲ改正スルコト次ノ如シ

日	附	工	場	新定員	舊定員	記事
十八日	造船科製圖工場			三〇	二五	
二十日	機械科製圖工場			一八	一五	

一、六月一日造船機械兩科用トシテ四馬力五分ノ一小蒸氣船一隻ヲ製造スルコトハ昨十九年十月二十二日認許ヲ得爾來製造中ナリシカ本日ニ至リ竣工セリ該船新造費ハ金四千七十八圓五錢六厘ニシテ豫算ヨリ超過スルコト金五百七十八圓五錢六厘ナリ依リテ右不足額ハ造船機械兩科所管ノ諸機械新調修理費ヨリ流用スルコトトシ次テ本月三日ヲ以テ該船ヲ艤裝科所管ト定メタリ

一、六月三日海軍五等技手伊勢幹ハ船渠工場掛ヲ免シ船渠工場長ヲ命セラレタリ

一、六月七日本日鋼製第一報知艦八重山號ノ龍骨据付ニ著手セリ同艦ノ長幅喫水等ヲ擧クレハ次ノ如シ

長	九十六メートル	排水量	千六百トン
幅	十メートル五百	一時間速力	十九乃至二十浬
平均喫水	四メートル六十		

一、六月十七日昨十九年七月十七日龍骨据付ニ著手セシ新艦ノ船體成レルヲ以テ本日命名式ヲ擧行ス當日擧式前遠武造船所長ハ新艦明細表費額表及寫眞圖等ヲ中牟田鎮守府司令長官ニ提出シ司令長官ハ之ヲ海軍大臣代理樺山海軍次官ニ提出ス午後一時三十分鎮守府司令長官造船所長先導シテ海軍次官參謀本部次長以下一同式場ノ座臺ニ著席ス造船所長卽チ式場整頓ノ旨ヲ海軍次官ニ開申シ次官ハ新艦ヲ愛宕號ト名ク云々ノ命名書ヲ朗讀ス次テ造船所長ハ進水臺ノ支木ヲ脫却スル用ニ供シタル錘鋼ヲ切斷ス然レトモ船體少シク船臺ニ膠著スルカ如カリシカ稍暫クシテ進水シ式ノ終ルヲ告ケタリ尙當日　明宮殿下幷ニ有栖川宮威仁親王殿下ニモ　御臨場アラセラレタリ本艦ノ要領費額及命名式順序左ノ如シ

○愛宕艦要領

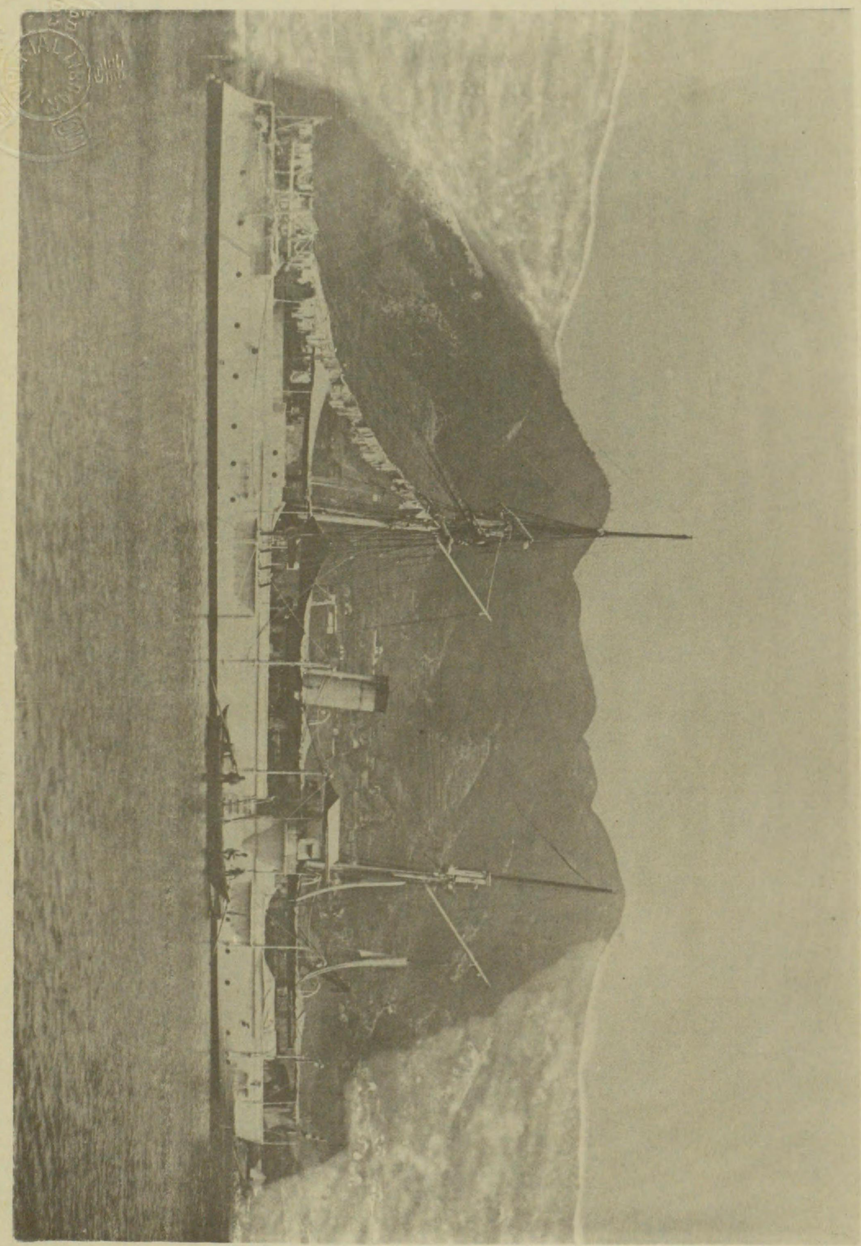
長	四十七メートル	乘員	百十三人
幅　但最大	八メートル二百ミリ	機械種類	コンパウンド、ダイレクトアクチング、ホリゾンタルインヂン
深	四メートル百五十ミリ	速力	十節四分ノ一
喫水　但首尾平均	二メートル九百九十ミリ	汽壓　方一尹	八十パウンド
艦種	砲艦	實馬力	七百馬力「フォースドラフト」ノトキハ九百五十馬力
船質	內部鋼外皮鐵	汽罐	シリンドリカルガンボートボイラー
排水積	六百二十一トン	砲種及數　船首	旋回砲二十四サンチ　一門
裝帆	スクーナー	砲種及數　船尾	同　十五サンチ　一門
		砲種及數　機砲	二門

○製造費額表

豫算高金二十一萬七千圓

一金十五萬五千九百八十四圓十三錢

明治十七年十月十二日ヨリ同二十年六月十日迄ノ入費



愛宕

水進日七十月六年廿治明

筑波艦ノ汽罐改造及公試

外

一金六萬千十五圓八十七錢

內譯

一金千七百五十圓五十三錢七厘　製圖費

一金十萬六千百九十九圓七十錢四厘　船體費

一金三萬百四十五圓二十六錢五厘　機械費

一金一萬七千三百六十一圓六十八錢九厘　汽罐費

一金五百二十六圓九十三錢五厘　雜費

二十年六月十一日以降落成迄ニ要スヘキ分

○命名式順序

明治二十年六月十七日愛宕艦船體落成シ命名式ヲ擧ク本艦ノ裝飾ハ吹流シ及ヒ大、中、小ノ旗若干ヲ樹ツ當日午後一時三十分

海軍大臣以下夫々本艦ノ前面ナル式臺ニ上ル造船所長ハ式場ノ整頓スルヲ見テ之ヲ海軍大臣ニ告ク於是大臣ハ本艦ノ命名書ヲ朗讀セラル終テ造船所長ハ進水臺ノ行リ止メ木ヲ脫却スル爲メニ設ケタル錘鋼ヲ一齊ニ切斷ス而シテ其手順ハ左ノ如シ

第一　兩舷檻締メ方

第二　兩舷支柱外シ方

第三　後部兩舷行リ止メ柱外シ方

第四　船首盤木取放シ方

第五　前部兩舷行リ止メ木ヲ脫却スル爲メ錘鋼切斷

第六　水壓器押シ方

第七　奏樂

第八　艦ノ進行ヲ始ムル際本艦ノ船首ニ釣シタル紙製ノ球破裂シ鳩數羽小球數箇五色ノ紙片無數小旒數箇空中ニ飛揚ス

一、六月二十五日海軍大技監渡邊忻三ハ第二海軍區第三海軍區鎭守府建築委員ヲ免セラレタリ

一、七月二日筑波艦右舷汽罐改造工事落成セシカハ艦政局員立會ノ上試運轉ヲ施行セシニ毫モ故障ナク好結果ヲ得タリ

一、七月八日本所ニテ製造セシ第二震天號幷ニ「ライター」船ヲ水雷營ニ引渡スヘキ旨去月二十五日及二十八日付府達ニヨリ本

日第二震天號ヲ同十日「ライター」船ヲ水雷營ニ引渡セリ兩船ノ要領左ノ如シ

○第二震天號

製造年月	二十年六月十六日	排水量	一七七噸
製造所	横須賀海軍造船所	容積	九七噸
船質	鐵骨木皮	名馬力	四〇
長	三一、七八〇（米突）	實馬力	二五五、七八
幅	六	走力	一〇、八四二（浬）
喫水 前	一、七八〇		
喫水 中	二、二七五		
喫水 後	二、七七〇		

○「ライター」船

製造年月	明治二十年六月十日	幅	五、三三〇
製造所名	横須賀海軍造船所	深	二、一三四
船質	木製	喫水	一、四九〇
長	一九、八一〇（米突）	排水量	七六、七基（噸）

石川島造船所機械ノ拂下

一、七月九日海軍省ハ伊藤辰吉ニ海軍少技士候補生ヲ命シ本所ニ勤務セシムルコトトセリ

一、七月九日本所所轄横濱舊製鐵所諸機械及建物等ハ兼テ平野富二ニ貸渡シアリシカ去ル十六年中同人自費ヲ以テ石川島造船所内ニ移轉スルコトトナリ十七年四月十七日貸渡條約ヲ改正シ現今引繼キ貸渡中ナリ然ルニ昨年十二月二十六日ニ至リテ平野富二ヨリ該機械建物ノ拂下ヲ願出テタレハ本所ニ於テモ充分調査セシニ諸機械類ハ何レモ二三十年前ノ古形ニシテ將來本所ニ於テ使用ノ目途モナキノミナラス損所ノ生スル都度新規仕替ヲ要求スル等其經費モ少ナカラサレハ此際諸機械及建物等全部相當代價ニテ拂下ケ其金額ヲ以テ本所ニ必要ナル機械ヲ購入スル方工業上便益ト考ヘラルルヲ以テ拂下方許可アリタキ旨去ル四月本府ニ上請ノ末本日許可セラレタリ

機械類通計　五十廉

此代金　六千九百八十二圓三十錢

深川艦材圍場ニ於ケル鋸機械ノ拂下

諸建物等總テ建具附屬

合坪數四百十七坪二合五勺一才

此代金四千三百七十二圓九錢

右合計一萬千三百五十四圓三十九錢

依リテ海軍督買部ニ於テハ九月十三日ニ至リ無利子三箇年賦ニテ拂下クルニ依リ代金ノ内金一千三百五十四圓三十九錢ヲ九月中ニ本所ニ納付ノ上機械幷ニ建物ヲ受取ルヘク而シテ前記拂下ノ建家五棟幷ニ該所ニ建設所有スル三階建家屋一棟ヲ殘額金一萬圓ノ抵當トシテ前金皆納ノ期迄督買部ニ差入ルルコトトシ殘金ハ左記ノ期限ニ本所ニ直接納入スヘキ旨拂下人平野富二ニ命令シ同十五日平野富二ヨリ請書ヲ提出セシカ次テ第一回納金ヲ納入シ十二月一日該所ヲ受取レリ

一、七月十一日東京深川艦材圍場ニアル十六馬力鋸機械汽罐其他附屬品及十二馬力機械罐幷ニ「フートレーズ」等從來使用ノ見込ナカリシカ今回東京府下澁谷村近藤富德及同京橋區高島德右衛門ヨリ綿布製造機械ニ使用スル爲メ拂下方出願セシニ付本所見込代價ト比較セシニ三百六十九圓高價ナルニ依リ督買部ヲ經テ拂下クルコトトシ本日諸機械ヲ引渡セリ

機械調書

一	十六馬力機械	一組	
一	同汽罐附屬品共	一箇	
一	同附屬大縱挽鋸機械	一器	
一	同附屬丸挽鋸機械	一器	
一	同附屬目立機械	一器	
一	同附屬眞棒幷車	一器	
一	十二馬力機械	一組	
一	同附屬汽罐大小	二箇	
一	フートレーズ　但附屬品共	一器	
一	フート鋸及錐機械但附屬品共	一器	
一	大形萬力	一箇	
一	小形萬力	一箇	

合計　十二廉

此願受代金千八百五十七圓五十錢

佛國「クルーゾー」社ニ水雷艇十七隻ヲ注文ス

一、七月十五日今回水雷艇十七隻ノ製造ヲ佛國「クルーゾー」會社ニ委託シ同時ニ該艇ニ使用スル汽罐製造法ヲ研究セシムル爲メ製罐職工ヲ派遣スルコトトナリタルヲ以テ去ル六月一日海軍顧問ベルタンハ右練習職工中ニ横須賀造船所ヨリ二名ノ職工

八重山艦ノ製造費

ヲ加ヘ汽罐ノ構造或ハ修繕ヲ研究セシメンコトヲ建議シ艦政局ヨリ右ノ旨横須賀鎮守府ヲ經テ本所ニ通知アリシカハ本所ニ於テハ工夫長山田一生、工夫角田豐次郎、同竹本米吉ヲ派遣スルコトトシタキ旨上申ノ上海軍大臣ノ認許ヲ得本日右三人ニ對シ佛國出張中ハ小野濱造船所ヨリ派出ノ職工ト共ニ艦政局長ノ指揮ヲ受ケ水雷艇請負者佛國「クルゾー」社ニ於テ該艇ノ製造ニ從事ス可ク出張中ノ旅舍賄料一日金一圓七十五錢日當金五十錢ハ艦政局ヨリ支辨スル旨訓令セリ

因ニ云フ工夫長山田一生ハ既ニ私費留學生トシテ英國滯在中ナリ依リテ本所ヨリ同人ニ通知セシニ同人モ之ヲ承諾シ八月二十四日ヲ以テ倫敦ヲ發シ佛國ニ移レリ

一、七月十七日去ル四月　明宮殿下御遊船トシテ十五呎端船一隻(豫算金二百圓)製造ス可キ旨艦政局ヨリ達セラレシカハ著手ノ上本日竣工セリ依リテ本所ニ於テハ同十九日東京ニ回漕ノ上艦政局ニ引渡セリ

一、七月十九日本年四月普第一六〇八號ノ五ヲ以テ海軍大臣ヨリ千六百噸報知艦(八重山)製造入費取調方下命アリシカハ先ニ船體部ニ關スル入費概算金四十三萬五千圓餘ヲ要スハキ旨上申セシニ少シク高價ニ過クルノ嫌アルニ依リ更ニ一噸ニ付金二百三十圓ノ豫定ヲ以テ計金三十六萬八千圓以内ニテ製造スルコトトシ本日横須賀鎮守府ヨリ此旨本省ニ上申セシニ同二十八日ニ至リ認許セラレタリ其豫算配分左ノ如シ

八重山艦豫算

一金三十六萬八千圓　　製造費幷艤裝費豫算

内譯

第一　金十四萬六千五百圓　　諸材料費

第二　金二十二萬千五百圓　　工費

一、七月二十三日甲船ノ入渠中乙船ノ修理差延シ難ク一時甲船ヲ出渠セシメ乙船ヲ入渠セシムル時ノ船渠料收入法ニ就キテハ從來定則ナカリシカ自今斯ル場合ニハ甲船ノ入渠料定則ノ三日分ヲ三分シ其一分ヲ乙船ヨリ增收シ甲船再度入渠ノ時ハ前入渠ニ繼續スルモノトシテ滯渠料ノミ收入スルコトトセリ

艦船修理工事ノ種別ヲ定ム

一、八月九日去ル五月本省ヨリ航行ノ役務ニ服スル艦船及港内繫留艦船ノ修理ニ付何レモ至急ヲ要スル旨申込ミ來リ職工分配上困難ノ場合少ナカラサルニ依リ自今艦船ヲ尋常、急、至急、大至急ノ四級ニ區別シ修理スルコトニ指令セラレタキ旨去ル六月二十九日付本所上申ニ對シ横須賀鎮守府ハ其四項大至急工事ヲ除キ之ヲ許可セリ而シテ第一項ヨリ第三項ニ至ル標準區別左ノ如シ

一　尋常工事

此工事ハ定時間内ノミ就業スルモノ但シ事業ノ都合ニヨリテハ休日若クハ適宜ノ時間ヲ以テ定時間外ニモ就業スルコトアルヘシ

一　急工事

平日休日(祝祭日ハ除ク)及適宜ノ時間ヲ以テ定時間外ニモ就業スルモノニシテ尚前項ノ工事ニ從事スル職工ヲ引揚ケ使用スルコトアルヘシ

一　至急工事

此工事ハ平日休日及定時間外午後十時迄就業スルモノニシテ尚前二項ノ工事ニ從事スル職工ヲ引揚ケ使用スルコトアルヘシ

右急工事、至急工事ノ二項ハ鎮守府ノ特令アルニアラサレハ施行スルヲ得ス

一、八月九日本邦駐在清國公使ヨリ内閣ノ手ヲ經テ本所船渠ニ付照會アリシカハ當所ハ本日ヲ以テ調査報告セリ就中建築費額起工、竣工年月幷ニ建築者ヲ擧レハ左ノ如シ

浪速艦志州鳥羽沖ニ座礁

船渠番號	建築費額	起工年月	竣工年月	建築者
第一	一九〇、五四一・五四〇	慶應二年三月	明治四年三月	計畫者佛人フロラン
第二	五〇二、七四八・九七八	明治十三年七月	同十七年六月	同ジュウエット
第三	八三、三一三・六六三	明治四年六月	同七年一月	同フロラン

一、八月十二日去ル三月十一日浪速艦志州鳥羽沖ニテ暗礁ニ觸レ船底破損シタレハ同十五日本所船渠ニ入渠シ其損所ヲ檢査セシニ二十四番「フレーム」ヨリ五十九番「フレーム」迄長四十三米突幅三米突乃至五米突損所ヲ生シ此部分全部外被板凹形ヲ現ハセリ依リテ本所ハ工事日數約百四十日修理費入渠料ヲ除キ金二萬八千圓ノ豫算ニテ工事ニ著手セシカ愈々竣工セシカハ本

日試運轉ヲ施行セシニ總テ故障ナク好結果ヲ得タリ

一、八月十六日本所ハ明治十年規第八十號同十一年規第二十八號ヲ次ノ如ク改正セリ

一　工夫志願ノ者ハ毎年十二月三十日迄ニ願書ヲ差出ス可シ

一　工夫志願ノ者ハ左ノ人員立會體格ヲ檢査シ甲乙丙ヲ區別ノ上服業ニ差支ノ有無等其ノ意見ヲ附記シ押印ノ上調書ヲ差出スヘシ

科長及工場長
醫官
巡査掛

一　右檢査合格者採用期ハ毎年二月一日トス

一　工夫ニ採用シタルモノハ三日以内ニ證書ヲ差出スヘシ

一、九月五日英國人ヘンリーレウキス及ダビッドニコラスノ兩人ハ昨十九年九月十九日ヨリ滿一箇年ノ契約ニテ傭繼キ來ル十八日ニテ滿期ニ達スレトモ目下鋼鐵艦ノ製造中ニシテ本所職工ノ伎倆未タ充分ナラサレハ右兩人ノ如キ今後益々必要ノ人物ナルニ依リ現給料ヲ以テ來ル九月滿期ノ日ヨリ向フ一箇年間傭繼クコトトシタキ旨八月二十日遠武本所長ヨリ中牟田司令長官ニ上申ノ末本日ニ至リ認許セラレタリ

一、九月二十九日本所ハ海外行者費用取調方内閣ヨリ來書ノ趣ヲ以テ會計局ヨリ照會ニ對シ左記ノ通リナル旨回答セリ

海外行者費用調

俸給一箇年支給高	手當一箇年支給高	旅費日給及仕度料一箇年平均高	官	姓名
四二七、〇五〇	ナシ	一、五三六、一一〇	六等技手	松村六郎
一四六、〇〇〇	ナシ	一、〇六三、五八一	工夫長	豐田銀次郎
一二〇、四五〇	ナシ	八三四、八八一	工夫	庄司藤三郎
一二四、一〇〇	ナシ	八三四、八八一	工夫	加藤榮吉
一〇二、二〇	ナシ	八三四、八八一	工夫	豐田磯吉
計 九一九、八〇〇		五、一〇四、三三四		

米艦「モノカシー」號入渠期日ノ手違

葛城艦ノ竣工引渡

一、九月二十八日米國軍艦「モノカシー」號ハ船體檢査トシテ數日間入渠スル爲メ海軍大臣ノ允許ヲ得本日當港ニ入港シ直ニ入渠センコトヲ要求セリ然ルニ本所ニ於テハ去ル二十七日本省官房ヨリ二十八日同艦回航スルモ差支ナキヤト照會アリシカハ入渠ハ二十八日後ノ見込ナレトモ回航ハ差支ナキ由ヲ返答シタルモノナルヲ以テ到底即今入渠ノ運ヒニ至リ難キニ依リ其旨ヲ同艦長ニ談セシニ同艦長ハ大ニ失望シ遂ニ横濱ニ歸港シテ其旨公使ニ通知セシカハ公使ハ外務省ヲ經テ海軍省ニ其理由ヲ詰問セリ依リテ海軍省ニテハ鎮守府ニ對シ大ニ不都合ナリト電令セシカハコハ本所ニ於テハ意外トスルトコロニテ其錯誤ノ理由ニ至リテハ殆ント解シ難キヲ以テ同三十日ニ至リ其事情ヲ記シ鎮守府ヲ經テ本省ニ提出セリ然ルニ其後判明セシ所ニ依レハコハ公使ニ於テ二十八日後トアル後字ヲ注意セサリシト又双方通譯者ノ不完全ヨリ起リシモノナルコト判然セシヲ以テ十月十三日ニ至リ本件ハ無事解決シ又同艦ハ十月一日入渠スルコトトナレリ而シテ同艦ノ入港中本所カ同艦員ニ示セシ厚情ハ此際兩者ノ間ノ平和ニ頗ル影響アリシモノノ如シ

一、十月三日去ル十六年八月以來本所ニ於テ製造中ナリシ葛城艦ハ本年一月ヲ以テ竣工セシカハ同月十九日公試運轉ヲ施行セシニ平均全速力一一、九五浬ヲ得機關各部故障ナク好結果ヲ得其後ノ公試發射ニ於テモ好成績ヲ擧ケシカハ本所ハ本日ヲ以テ同艦ヲ艦長心得松岡海軍少佐ニ引渡セリ同艦ノ要目及製造費額左ノ如シ

葛城艦要目

製造年月	二十年一月二十一日	機關種類	ホリゾンタル コンパウンド、インヂン
船質	スループ	汽罐	圓形マリーン形　六箇
長	六一、二六四米突	推進器種類	三葉翼
幅	一〇、六六八	實馬力	最大　一五九四馬力二六
深	中甲板下ヨリ　三、八五三	同	標柱間八回平均　一三六八馬力
喫水	前 四、九〇二　中 五、一二〇　後 五、一三一	炭庫容積	一七九立方米突
排水量	一、六六五噸	一晝夜所費炭量（全速力）	四〇噸一一（英斤）
容積	一、一七二 BOMT	走力	一時間最大　一二浬二五
檣	バーク	同	一時間標柱間八回平均　一一浬九五

葛城艦新造費額調

但シ十五年四月起工ヨリ二十年九月落成迄ノ分

豫算高五十九萬三百八十九圓七十七錢七厘

合計金六十四萬二千六百十四圓三十八錢

此内譯

一金四千二百六十二圓五十六錢六厘　製圖費

一金四十六萬五百三十四圓六十一錢一厘　船體費

一金九萬三千五百九十八圓八十七錢　機械費

一金六萬千七百二十七圓五十八錢九厘　汽罐費

一金一萬三千六百十九圓二十七錢八厘　雜費

一金四千十九圓四十七錢　端船費

一金二千三百十二圓六十二錢一厘　小蒸氣船費

一、十月十日橋立艦製造ノ件普第四九六二號ヲ以テ訓令アリタルニ依リ製造ニ著手スヘキ旨本府ヨリ達セラレタリ

一、十月十五日先般機關學校條例制定セラレ同條例第二條ニ機關學校ニ機械場ヲ屬シ云々トアレトモ同校ニハ練習生教授用ニ充ツヘキ機械ナキニ依リ當分ノ内左記ノ手續ニ依リ本所ヨリ貸與スルコトニ本所幷ニ機關學校ニテ交渉成立シ去月三十日鎮守府ヨリ本省ニ上申セシニ十月八日ニ至リ認許セラレシカハ本日鎮守府ヨリ本所及機關學校ニ此ノ旨通達セラレタリ

機關學校ハ當分造船所内ニ於テ機關學校練習生ニ實業教授スルニ付造船所長ト機關學校長ト熟議ヲ遂クル條件左ノ如シ

一　機關學校練習生ノ實業ハ當分ノ内横須賀造船所内錬鐵、旋盤、組立、鑄造、製罐ノ五工場ニ於テ練習スルモノトス

二　造船所ハ練習生用品トシテ當分左記ノ器械ヲ貸渡スモノトス

但シ造船所ノ工業繁忙ニシテ機械不足ヲ告クル時ハ何時タリトモ之ヲ返却スヘシ

錬鐵工場附屬（フォージ）　八箇

鐵敷　八箇

一　臺　製罐工場附屬（フォージ）　二箇

レース

二　臺　鐵敷　二箇

旋盤及組立工場附屬

ドリリング

プレーニング　一　臺　鑄造工場附屬鐵框　二十箇

バイス　七箇

三　前項機械ノ外鑪槌、鑽鑢等總テ機械道具ハ機關學校ニテ自辨スルモノトス

四　練習生練習ニ要スル需用品卽チ地金石炭等ハ造船所ヨリ渡シ置キ其ノ代價ハ三ケ月毎ニ機關學校ヨリ造船所ニ辨償スルモノトス

但シ練習生ノ爲メ造船所ノ工事ヲ營ムトキ需用品卽チ地金石炭等ノ入費ハ造船所ヨリ之ヲ支辨スヘシ

一、十月二十二日海軍省ハ工夫及職工人夫等ニシテ死傷スルモノ取扱方ニ付左ノ内規ヲ發シタリ

一　官役中傷痍ヲ受ケタルモノハ海軍軍醫若クハ海軍軍醫在勤セサル場所ニ在リテハ所轄長ノ指命シタル地方醫ヲ以テ診斷シ治療セシムルモノトシ其ノ藥價、賄料及體軀取扱ニ係ル費用ハ總テ官費ヲ以テ支拂フヘシ但シ自宅ニ於テ療養スルモノハ賄料ヲ支給セス

一　傷痍ノ狀態或ハ居宅ノ構造地位等ニ依リ自宅ニ於テ療養スル能ハサル者ハ海軍病院ニ於テ治療セシムヘシ但シ作業廳患者ヲ除クノ外入院中ノ費用ハ渾テ同院ニ於テ支辨スヘシ

一　海軍病院ナキ地方又ハ出張地ニ於テ傷痍者アルトキハ地方病院若クハ其他治療場所ヲ指定シ療養セシムルコトヲ得

一　前各項ニ依リ療養セシムル者其日數百日迄ハ工夫ハ日給四分ノ一其他ハ日給若クハ賃金ノ五分ノ一ヲ最上限トシ適宜支給スルヲ得但シ定傭夫賃金支給定規第二條ニ依ルヘキ者ハ此限ニアラス

一　前各項ニ揭クルノ外ハ總テ明治八年四月第五十四號公達ニ依リ現金ヲ以テ相當ノ手當ヲ支給スヘシ

一、十月二十四日本所所轄鐵製二馬力船ハ追々古損シ使用上不充分ニシテ實用ニ適シ難キ現狀ナリシカ偶々横濱相生町高橋定吉ヨリ拂下方出願ニ付機關幷ニ機械外附屬品共金二百三十一圓ニテ同人ニ引下ケ本日之ヲ引渡セリ

一、十月二十五日海軍大主計佐久間義一ハ本日主計少監ニ海軍大尉田口義尙ハ海軍少佐ニ任セラレ同二十七日前者ハ本所計算課長ニ後者ハ龍驤艦副長ニ補セラレタリ

一、十月二十七日昨年十二月横須賀軍港司令官用端船製造方依頼ニ依リ本年二月十八日起工シ本月十四日竣工セリ依リテ當所ハ本日ヲ以テ該船ヲ軍港司令部ニ引渡セリ同船ハ其船質「コンポヂイト」ニシテ長サ四十二米半排水量二百五十三噸全速力十三浬ナリ而シテ内外ヲ白色ニテ塗裝シ丸縁ノ下ニ金線ヲ施セリ

一、十月二十八日本所ハ所内一般ノ蒸氣罐及元機械其他蒸氣喞筒機械ヲ自今機械科ノ監督ニ屬スルコトヽセリ

一、十月二十日新造中ニ係ル高雄艦ノ汽罐ハ六箇据付ノ計畫ナリシカ今般五箇ト定メタル旨西郷海軍大臣ヨリ達セラレタリ而シテ殘餘ニ係ル汽罐ハ宛モ迅鯨艦空氣壓搾喞筒及電氣燈ニ要スル汽罐新設ノ必要アル際ナリシカハ同罐ヲ迅鯨艦ニ備付クルコトヽセリ

一、十一月十六日從來工業ノ爲メ在灣ノ艦船其他職工等ノ往復ニハ市中ノ傭船ヲ以テ之ニ充テタリシカ右ニテハ不取締ノミナラス往々危險ノ虞モアルヲ以テ新ニ通船五隻ヲ製造スルコトニシタキ旨去ル七月三十日鎮守府ニ上申シ八月一日認許ノ末爾來製造中ナリシカ本日ニ至リ落成シ艤裝科ニ引渡セリ

新製ノ種類及費額左ノ如シ

一 シヤラン船	一隻	製造費金百二十四圓七十八錢一厘	
一 大形傳馬船	一隻	同	二隻
一 中形同	同	製造費金百七十九圓六十一錢三厘	
一 小形同	二隻		

一、十一月十八日本所ハ願問ベルタン氏ノ忠告ニ依リ今回佛國「クルーゾー」社ニテ發明セル石炭油ヲ以テ「コークス」ニ代ヘ鎔解スル新法傳習ノ爲メ六七箇月間ヲ限リ本所工夫横溝龍藏淺羽民吉ヲ同社ニ派遣シ先ニ同社ニ派遣中ニ係ル豐岡銀次郎ト共ニ鑄鋼所ノ研究ニ從ハシムルコトトシ右ノ旨ヲ兩人ニ命シタリ依リテ兩人ハ翌十九日ヲ以テ横濱ヲ發シ渡佛ノ途ニ就ケリ

一、十一月二十五日海軍省ハ昨十九年九月發布省令第百八號海軍艦船造修規則第八條ヲ下ノ如ク改正セリ

第八條　鎮守府ハ艦船ノ製造全ク落成シ消耗品ノ外總テ兵器諸器具ヲ搭載シタルトキハ消耗品ヲ總テ搭載シタルトキトノ兩期ニ於テ艦政局員立會ノ上該艦船重心ノ位置ヲ試驗シ其成績ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ又艦船局ハ鎮守府員立會ノ上該艦船并其兵裝ヲ檢査スヘシ

堀田瑞松發明ノ防銹漆

一、十一月二十六日堀田瑞松發明專賣ノ鐵鋼防腐漆塗ハ去ル十七年以來本所ニ於テ泥浚船々底及ヒ鐵板鋼材并ニ郵船會社ノ船舶ニ塗施ノ上試驗シ以後改良ヲ加ヘテ舊水雷船四隻ニモ塗抹シ又昨年六月中扶桑艦ニモ試驗シ本年四月同艦入渠ノ際檢閲セシニ好結果ヲ得タレハ今後モ全艦船ニ塗抹セラレ度キ旨去ル五月中同人ヨリ海軍大臣ニ願出テシニ本日ニ至リ同防銹漆ヲ自今部内艦船ノ塗料ニ使用スル様訓令セラレタリ

一、十一月二十八日去ル十七年九月中機械科ヨリ伺出同十月中買上方許可セラレタル六十噸スチームクレーン一臺ハ其後買入ノ末据付方此程落成セシヲ以テ本所ハ機械科ノ申出ニ依リ本日右機械附屬品共艤裝科ノ所轄トセリ依リテ機械科ニ於テハ同三十日ヲ以テ之ヲ艤裝科ニ引渡セリ

一、十一月三十日本所ハ本所ノ財産調査ニ著手スルコトトシ先ニ計算課ニ命シ財産調査順序案ヲ作ラシメ同課ハ九月八日ヲ以テ大體ノ方針ヲ定メ上申セシヲ以テ十一月五日ニ至リ海軍屬熊谷直孝外十名ニ本所財産調査委員ヲ命シ次テ本日ニ至リ佐久間主計少監ニ同委員長ヲ命シタリ

一、十二月七日海軍大技監高山保綱ハ艦政局御用掛兼務仰付ケラレタリ

一、十二月十二日本年四月九日東京府澁谷村近藤富德ヨリ東京深川艦材圍場内ニアル汽機汽罐并ニ建家等滿十箇年間借用シ度キ旨願出テシカ元來該建家中ニアル鋸機械ハ不用ニ屬シ既ニ拂下クル豫定ナルヲ以テ右ニ屬スル汽機汽罐共隨テ不用ニ屬スレトモ之ヲ貸下クルハ寧ロ之ヲ拂下クルノ勝レルニ如カサルカ如シ然レトモ該建家及土地ハ現時全ク不用ニシテ建家ノ如キハ古木ヲ以テ建築セシモノ故將來所望者モ少ナカルヘキニ依リ此際貸渡スコトヽシタキ旨五月十三日鎮守府ニ伺出テタリ依リテ鎮守府ニ於テハ本省ヘ伺出テシニ八月三十一日ニ至リ建家ハ拂下金一時納入ノ積ニテ拂下方取計フヘク地所分割貸與ハ不都合ニ付全部不用ト認ムルトキハ内務省ニ全部預入ノ上貸渡スコトトス可キ旨指令セラレシカハ本所ハ近藤富德ニ交渉シ一時金五百五十圓ヲ以テ建家ヲ拂下クルコトトシ十月二十六日鎮守府ヲ經テ伺出テシニ十一月十五日ニ至リ認許セラレシカハ木日ヲ以テ該建物ヲ同人ニ引渡セリ建物ノ坪數左ノ如シ

一 建坪	六十八坪	舊鋸機械場	一棟
一 同	七十二坪	木納屋	一棟
一 同	十一坪二合五勺	番兵小屋	一棟

一　建坪　四坪六合　湯沸小屋　一棟
一　同　二坪五合　雪隱　一棟
合建坪　百五十八坪三合五勺

一、十月十六日昨年九月海軍艦船造修規則制定セラレ次テ本年十一月同則中第八條ニ改正ヲ加ヘラレタルヲ以テ横須賀鎮守府ニ於テハ新艦落成ノ上授受ノ手續ニ付次ノ如ク規定セリ

新艦落成ノ上授受手續

第一　新造艦船乘員ハ其ノ艦ノ工事殆ント落成シ大砲裝備スルニ鑑ミ事務局ニ照會シ相當ノ人員ヲ乘組マシメ兵器其他各種ノ物品ヲ其ノ向ニヨリ請取リ本艦ヘ積載シ且之レヲ保管スルノ責任者トス

第二　乘員乘組後本艦請渡ノ手順執行セサル前ハ艦體保管ノ責任者ハ造船所タルヘシト雖モ乘員モ亦平常非常ノ別ナク艦體ノ保管ヲ爲スヘキモノニシテ附帶ノ責ハ免レサルモノトス

第三　乘員ハ諸向ニヨリ請取リタル物品ノ内自然造船所ノ工事ニ懸ケ船體ニ附著スヘキモノハ時々造船所ヘ告知スヘシ

第四　乘員乘組後所要ノ消耗品ハ中央倉庫及航海部倉庫ヨリ請取ルヘシ

但造船所負擔タル工事ノ爲ニ要スルモノハ造船所ヨリ渡スヘキモノトス

第五　重心點檢査ノ爲石炭其他所要ノ物品ヲ請取リ積載方ハ乘員ニテ所辨スルモノトス

但公試運轉ノ爲ニ所要ノ石炭等及「バルラスト」ヲ要スルトキハ其積載方ハ造船所ノ負擔タルヘシ

第六　公試運轉終リシ時期ヲ以テ艦體ヲ造船所ヨリ艦長ヘ請取ラシムルモノトス

第七　乘員ハ艦體ヲ請取リシ後ト雖モ造船所ハ大砲及水雷發射試驗ノ終リヲ告クル迄ハ工事上ノ責ヲ免レサルモノトス

一、十二月十七日佛國ヨリ製圖者二人來朝スルニ付圖工ヲ附屬セシムル爲造船科製圖工場圖工定員三十名ヲ三十四名ニ增加セリ

一、十二月二十四日横須賀鎮守府司令長官ハ本所ノ申出ニ依リ過般小野濱造船所ニテ摩耶艦ノ工事落成試運轉ヲ行ヒシニ速力九浬ニ上ラサルヲ以テ推進器ノ制式ヲ改造シタルニ十一浬ノ速力ヲ得タルニ考フレハ同艦ト同形同制ナル愛宕艦モ摩耶艦同様ナル結果ヲ得可キハ明瞭ナルヲ以テ此際推進器ヲ改造スル方好都合ナル可キ旨本省ニ上申セシニ翌二十一年一月二十一日

摩耶艦ノ推進器改造

ニ至リ改造ノ件認許セラレ艦政局ヨリ送附スル圖面ニ依リ入費及落成期限ヲ取調ヘ更ニ申出ツヘキ旨達セラレタリ

一、十二月二十四日海軍部内艦船ノ取外品ノ處分ハ從來主船局ニテ管理セシカ昨年二月官制改革ノ際同局ヲ廢セシ以來之ヲ管理スル官廳ナカリシカハ艦政局會計局及ヒ横須賀鎮守府ニ於テ協議ノ上次ノ如ク決定セリ

一　艦船ノ復舊修理及ヒ各部改造ノ爲メ横須賀造船所ニテ取外シタル諸物具及廢小汽船廢端船ハ横須賀鎮守府ニ於テ管理シ同府所轄造船所ヲシテ之ヲ處理セシムルモノトス

但小野濱造船所ノ分ハ當分艦政局ヲシテ管理セシム

二　艦船ノ復舊修理及各部改造等アルニ際シ取外シタル諸具ノ内造船所ニ於テ使用ノ見込アルモノハ同所ニ格納シ置キ使用ノ見込ナキ廢物品ハ鎮守府ヨリ之ヲ督買部ニ委ネ同部ヲシテ便宜公賣ニ附セシメ而シテ鎮守府ハ該物品ノ拂下代ヲ雜收入トシテ納入ノ手續ヲ了シ其ノ旨會計局ヘ報告スルモノトス

但シ造船所ニ於テハ不用ニ屬スル物品タルモ十分他用ニ適スル小蒸氣端舟及機關ノ類ニシテ其實型現在スルモノハ海軍大臣ノ決裁ヲ經テ之ヲ處理スルモノトス

三　艦船取外シモノヽ内海軍部内ノ艦船ニ再用スルコトヲ得ルモ多少修理改造ヲ加ヘサレハ使用ニ難キモノハ其修理改造ニ係ル諸費丈ケヲ使用セシ艦船ノ修理費ニ編入セシムルモノトス

四　艦船取外シモノノ内造船所ニ於テ之ヲ海軍部外船舶ヘ使用セントスルトキハ相當代價ヲ以テ造船所ヘ拂受ヲナサシメ而シテ鎮守府ハ該物品ノ拂下代ヲ雜收入トシテ納入ノ手續ヲ了シ其旨會計局ヘ報告スルモノトス

五　艦船取外シモノノ内造船所ニ於テ使用ノ道アルモ全ク原型ヲ變換セシ上ニアラサレハ使用ニ適セサルカ或ハ地金ニ屬スルモノノ如キハ都テ潰シモノト見做シ相當代價ヲ以テ造船所ヘ拂受ヲナサシメ而シテ鎮守府ハ該物具ノ拂下代ヲ雜收入トシテ納入ノ手續ヲ了シ其旨會計局ヘ報告スルモノトス

六　諸廳及ヒ營等ニ備付タル小汽船端船等朽損シ復舊修理整ヘ難クシテ新船ト引換或ハ返納ニナリシ該廢船ノ如キモ概シテ廢物具ト同視シ其ノ取扱上ハ前各項ニ準シ處理スヘシ

七　小野濱造船所ニ於テ前諸項ノ場合アルトキハ艦政局ノ指揮ヲ受ケ他向ヘ拂下又ハ同所ニテ拂受ケタル該拂下代金等ハ其都度同所ニ於テ直ニ第二部歳入トシテ國庫ヘ納付ノ手順ヲ爲シ其ノ旨會計局ヘ報告スルモノトス

艦船取外品處分方

一　十二月本年度中ニ於ケル本所ノ概況左ノ如シ

部内艦船新造

一　一月葛城艦落成セシヲ以テ公試運轉施行ノ上十月三日本艦長心得松岡方祇ヘ引渡ス

一　一月二十一日小鷹艦組立落成セシヲ以テ進水ヲ執行シ三月機關部摺合ノ爲メ初メテ點火運轉シ六月公試運轉ヲ施行セリ

一　一月水雷營用「ライター」船水卸執行七月全ク落成セシヲ以テ該營ヘ引渡ス

一　二月高雄艦肋材組立ニ三月外板取付ニ九月機械陸上假組立及艤裝工事ニ著手セリ

一　三月第二震天號機關部摺合ノ爲メ初メテ點火運轉シ三月艤裝工事竣工六月全ク落成セシヲ以テ公試運轉施行ノ上七月一日水雷營ヘ引渡ス

一　三月愛宕艦汽罐水壓試驗ヲ行ヒ六月十七日進水命名式ヲ執行シ七月汽罐ヲ艦内ニ積入レ十月機關据付ニ著手ス

一　四月武藏艦機關部摺合ノ爲メ初メテ點火運轉シ八月艤裝工事ヲ竣工ス

一　六月八重山艦龍骨材敷据ニ七月肋材組立ニ九月外板取付ニ十一月艤裝工事ニ著手セリ

部内艦船修理合計三十一隻

艦船修理ノ中ニ於テ最顯著ナル工事ヲ施行セシハ船體ニアリテハ迅鯨機關撤去跡艦内模樣替浪速ノ艦底破損所修理及筑紫ノ艦底全部ニ堀田瑞松防銹漆塗抹（堀田瑞松發明防銹漆ハ船底ノ一部局ニ試塗セシコト數回ナリト雖モ本艦ノ如キ全艦底ニ塗抹セシハ這回ヲ最初トス）等ニシテ機關部ニ在テハ比叡金剛筑紫鳳翔ノ汽罐浪速高千穗汽機及筑波ノ汽機汽罐ノ修理等ナリ

部外艦船修理

日本郵船會社所有船舶

横濱丸	陸奥丸二回	熊本丸	高千穗丸	松前丸二回	瓊浦丸
越後丸	高砂丸二回	美濃丸	東海丸	兵庫丸	長門丸
豐島丸二回	新潟丸	社寮丸二回	和哥浦丸	青龍丸	伊勢丸
近江丸	山城丸	駿河丸	住ノ江丸	薩摩丸	遠江丸

東京丸三回　廣島丸　芳野丸　相模丸

酒田丸　賴信丸　伏木丸

小計　三十八隻

澄臺船所轄船　明治丸二回　緒明菊三郎所有　通濟丸

三井物産會社所有　函館丸　日ノ出丸　福澤辰藏所有　第八福澤丸

淺野回漕店所有　藤倉五郎兵衞所有　日吉丸

小計　七隻

合計　四十五隻

二十年中外國船修理ニ係ルモノ左ノ如シ

英船	ゴルデンプリース號	露船	カムチヤツカ號		
同	アナンバ號	佛艦	チユレンス號		
佛艦	アスビツク號	英船	パートリツチ號		
英船	バタビヤ號	葡艦	ライヲリマ號		
獨船	アタランタ號	米艦	モノカシー號		
露艦	デミトリードンスコイ號	露艦	ウイチヤジ號		

合計　十二隻

前記部外艦船修復及外國艦船修理ノ工事ハ概ネ船底不良ノ「リベット」取換漏水ヲ生スヘキ「バットコーキング」ノ上塗換及舵ノ修理等ニシテ獨リ露艦「デミトリードンスコイ」ハ甲鐵部ニ堀田防銹漆ヲ塗抹セリ（外國船ニシテ堀田防銹漆ヲ塗抹セシハ本艦ヲ嚆矢トス）又機械ノ工業ハ多ク推進器ニ關スル修理ニ係ル

二十年中工場ヘ据付シ機械左ノ如シ

六月錬鐵工場五百「キロ」「スチームハンマー」据付工事竣工セリ

七月旋盤鑢鑿工場「シリンドルボーリングマシーン」据付工事竣工セリ

七月船渠工場七馬力「ロコモチーブ」及「ポンチングマシーン」据付工事竣工セリ

十一月鐵船製造器械場、鐵骨撓所及鍛冶場用電氣燈据付工事竣工セリ
十一月第三船渠脇海岸六十トン「スチームクレーン」据付工事竣工セリ
十一月製罐工場「ヅリリングマシーン」据付工事竣工ス
十二月鐵船製造器械場「シッキスピンドルナットタッピングマシーン」据付工事竣工ス
十二月鐵骨撓場鐵敷三十七箇据付工事竣工ス

土木

二十年中土木工事ノ總數ハ五百七十五件ニシテ其事業ノ狀況之ヲ前年ニ比スレハ幾分ノ閑ヲ來セリ其原因タル鐵船製造ノ機械場ノ工事ハ已ニ完結シ其他大事業ニ係ルモノ甚少キカ爲ナリ
從來當所ニテ負擔セシ走水村ヨリノ水道工事ハ二十年度經費ヲ以テスルコトニ決定セラレシニ付四月該工事ニ係ル物具書類等本府建築部ヘ引渡セリ

會計

二十年中會計ニ關スル事業成績ノ重要ナルモノ左ノ如シ
一、三月營業收入法ヲ改正シ海軍部內造修船費ニ限リ物品原形ノ儘讓渡ノモノハ割掛ヲナサス所內製造品ハ從前ノ割掛ヲナシ諸貸渡料ハ(船渠料ヲ除ク)海軍部內ニ限リ一般ニ定價表ニ依ラスシテ實費收入ノコトニ上申認許アリタルニ付四月一日ヨリ實施セリ但シ本年度ハ半途ニシテ其結果如何ハ判明シ得サルモ豫算實算對照上ニ於テ本年度作業益金ハ豫算通リ算出シ得ヘキヲ認メタリ
一、利根川丸拂下代金二千八百圓ヘ一旦上納ノ上更ニ十九年度小蒸氣船製造興業費トシテ御下附ノ義十九年十二月上申ノ處二十年二月認許ヲ得タルヲ以テ三月該費ノ決算ヲ了シタリ
一、三月靜岡縣和田港擴築社ヨリ返納金ノ內一萬圓該縣廳ヲ經テ送納セリ
右ハ明治十五年中該社長村上孫十郎外一名ヘ木材買上ノ爲メ前金二萬圓貸渡ノ末返納期漸々延引十九年十二月ニ至リ三十箇年賦返納ノ義出願ニヨリ今般所員ヲ出張セシメ懇諭ノ上終ニ半額ヲ返納スルニ至リ尙殘金一萬圓ハ二十一年向十五箇年賦返納ノ義許可セリ

一、鐵船製造器械及建築興業費豫算ノ總額金十六萬七千四百三十七圓ハ十九年度ニ於テ悉皆仕拂切リニ至リ猶殘業有之不足ヲ生シタルニ付同年度營業費內ヨリ支辨ノ義十九年中上申ノ處二十年一月營業資本ヲ減額シ更ニ興業費ヘ增額ノ義認許セラレタルニ付五月同費ノ決算ヲ了シタリ
一、十九年度作業收入ノ總計ハ金百八萬二百圓十七錢二厘ニシテ資本ヘ償還ノ爲メ支出セシ總額ハ金百五萬四千四百八十五圓十七錢九厘ニシテ差引純益金二萬五千七百十四圓九十九錢三厘ハ官業益金トシテ大藏省ヘ納入シ二十年八月十二日作業收入營業資本受拂決算帳及繰越金興業費ノ決算帳等ヲ差出シ其他總テ該年度ニ屬スル收支ノ決算ヲ了シタリ
一、外國購入物品代價ハ二十年一月ヨリ十二月二十二日迄合計金二十三萬二千百八十四圓九十三錢五厘ニシテ內當所備付器械代金一萬二百七十九圓二十錢ナリ
一、二十年一月ヨリ十二月二十五日迄內國ニテ購入セシ物品代價ハ十九萬八千七百二十九圓九十六錢九厘ナリ

倉庫

二十年中倉庫貯蓄品ニ係ル重要ノ件如左
一、二月土工專用ノ火山灰ヲ廢シ自今熊谷直孝發明燒土丹ヲ貯蓄シテ其用ニ供セシム
一、三月貯蓄品中不用ニ屬スルモノ審査ノ上品目帳ヲ調製シ又當所內及東京深川、豆州木負村ノ貯蓄欅曲材中不用ニ屬スルモノヲ類別シテ賣却ノ方法ヲ定メタリ

黌舍

二十年中黌舍修理工夫現員ハ四十九名ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ五名ヲ增加セリ

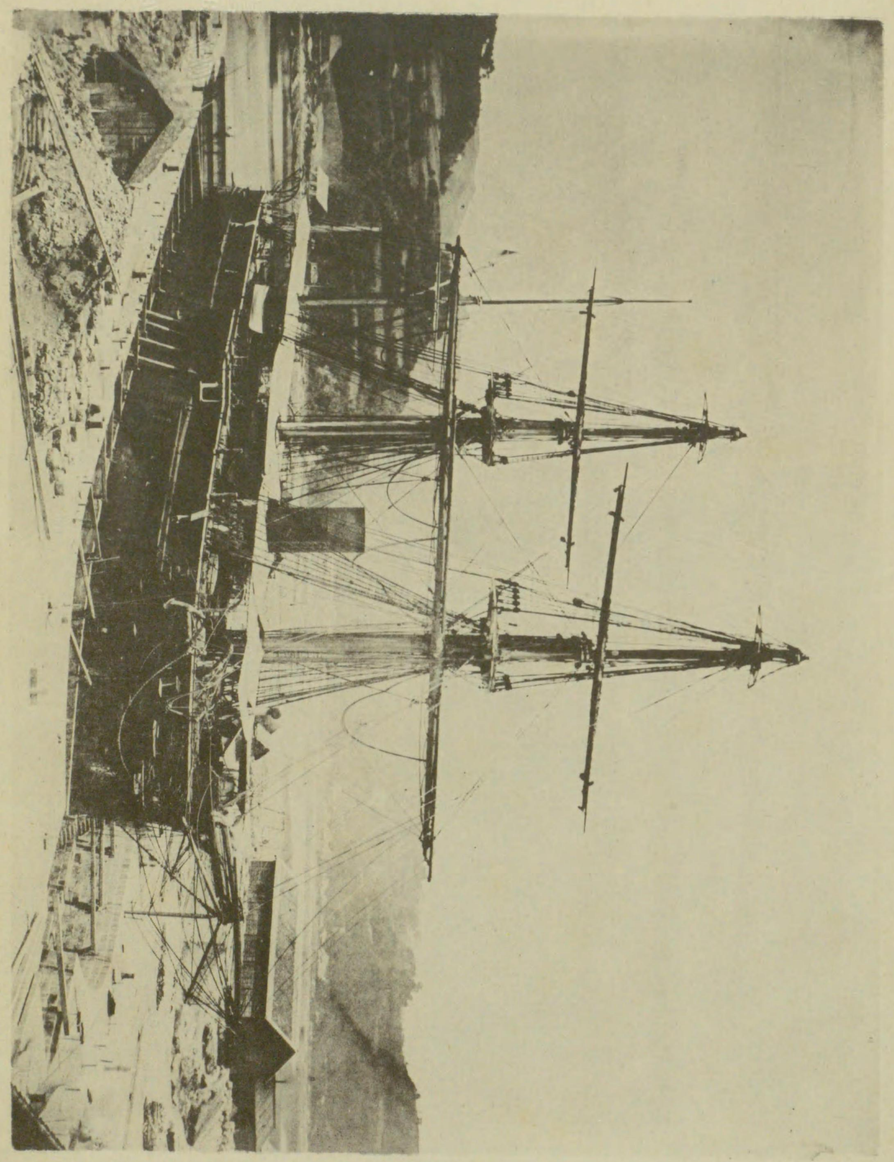
所員　十二月三十一日現在

一	奏任官	十一人 內六人兼務	一 工夫長 百二十一人
一	判任官	九十五人 內一人休職	一 監護 二十三人
一	卒	一人	一 用使 二十四人
一	筆生	七十一人	一 給仕 三人
合計		三百四十九人	

工夫職工業別　十二月三十一日現在

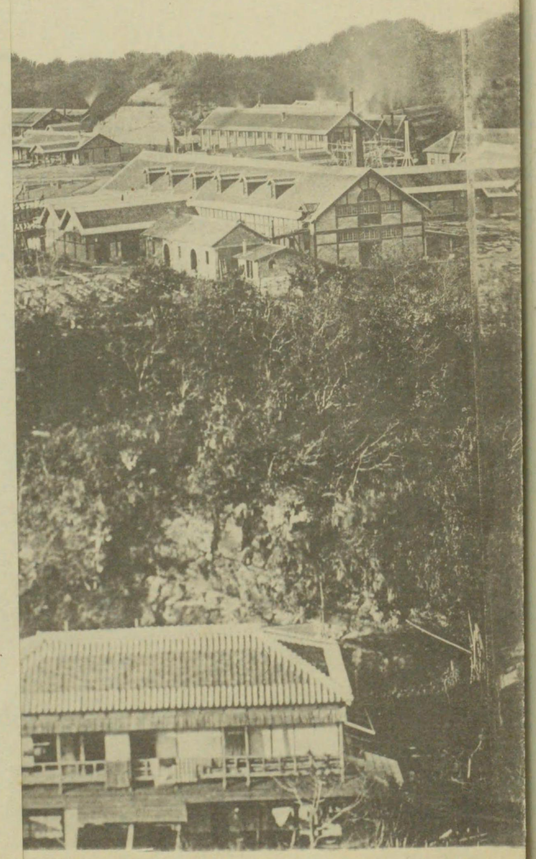
工場	工夫	雇職工	臨時雇職工	運搬夫	傭夫	通計	前年比較 増	前年比較 減
船臺	三六五	五五三			二〇	九三八	一五〇	
船渠	二三六	二一四			九	四五九	三三	
製綱	五八	三一			四	九三		
船具	三九	四六			四	八九	一〇	
鋸鉋	一三	七			一	二一		
錬鐵	六〇	五四			一	一五		
製罐	一七六	一二二			三	三〇一		
鑄造	四九	四二			三	九四		八
旋盤、鑢盤	八二	七九			四	一六五	九	
組立	七五	七四			二	一五一	一三	
造船製圖	一〇	一一				二一	一	
機械製圖	二	九				一一		
艤装科	二					二		三
造船科					五	五	二	
曩舎		一				一		
營繕	二	二〇	九三		三	一三六		二五
築造	一五	二七	七三		四	一一九		一五
運搬掛				一六五		一六五	四	
合計	一、二〇二	一、二九〇	一六六	一六五	六三	二、八八六	二二二	八九

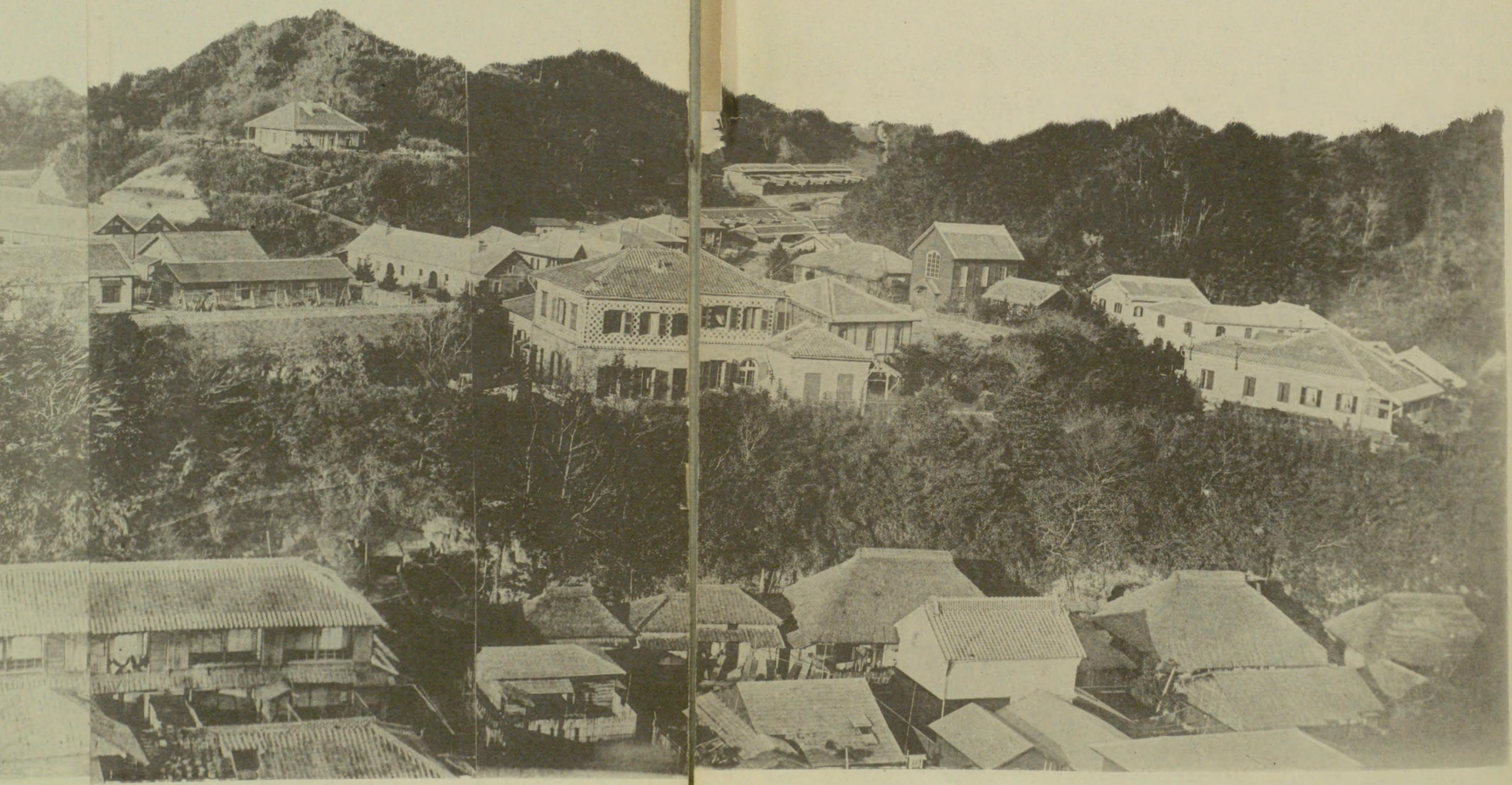
横須賀海軍船廠史　第二卷終



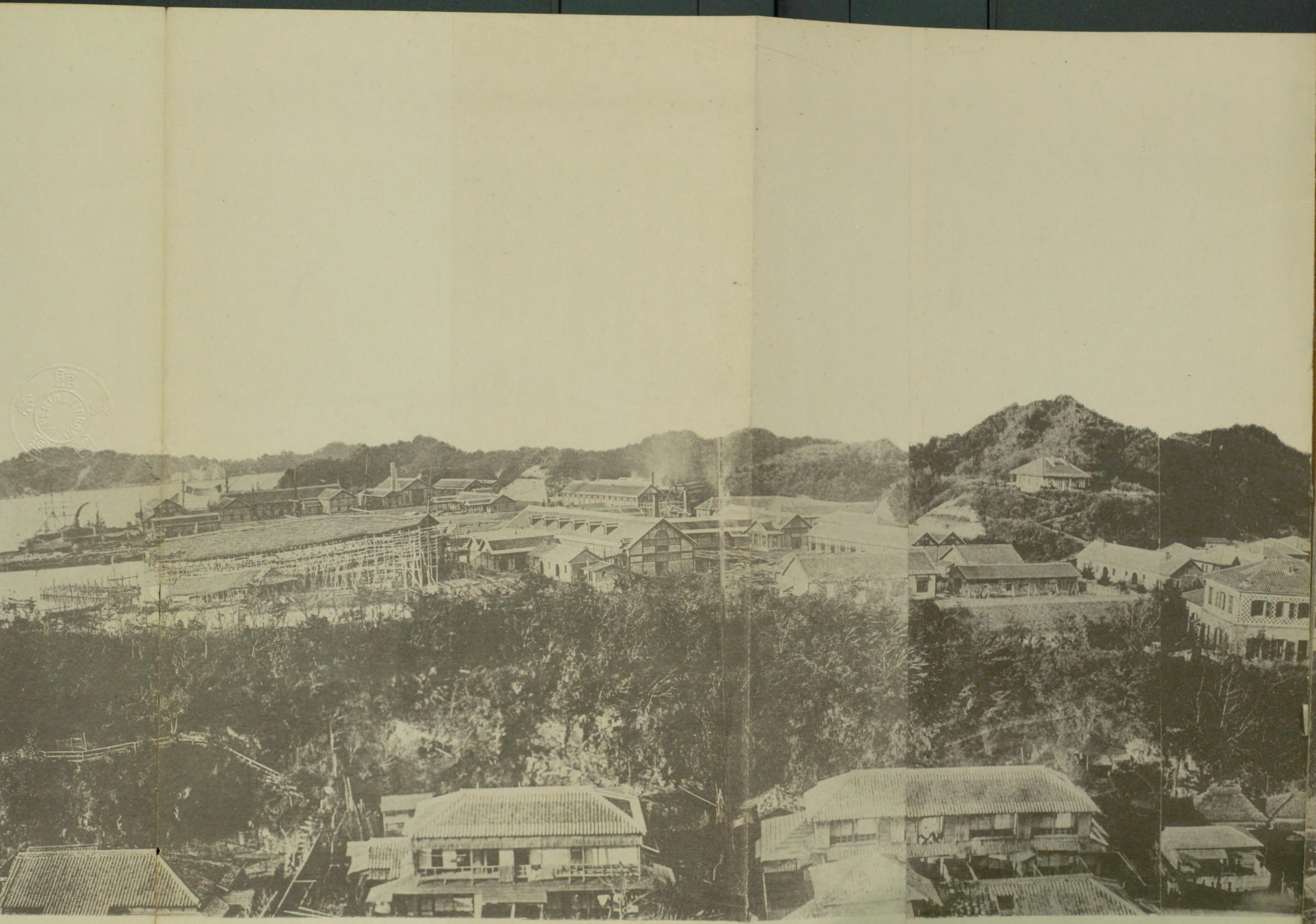
號クッユジンロイア艦英

（渠船一第）月五年七治明

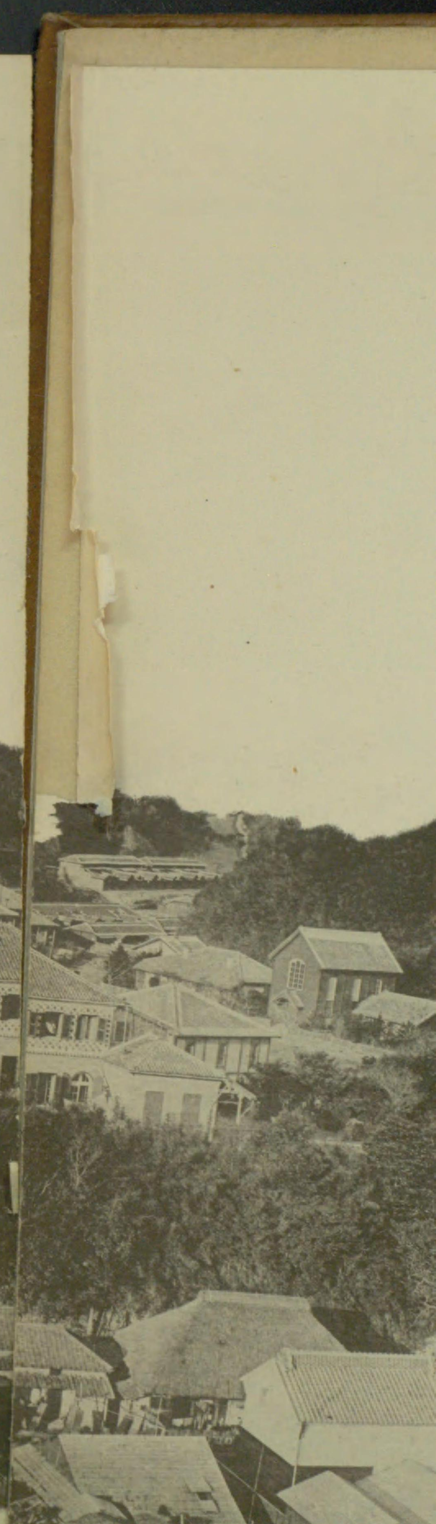


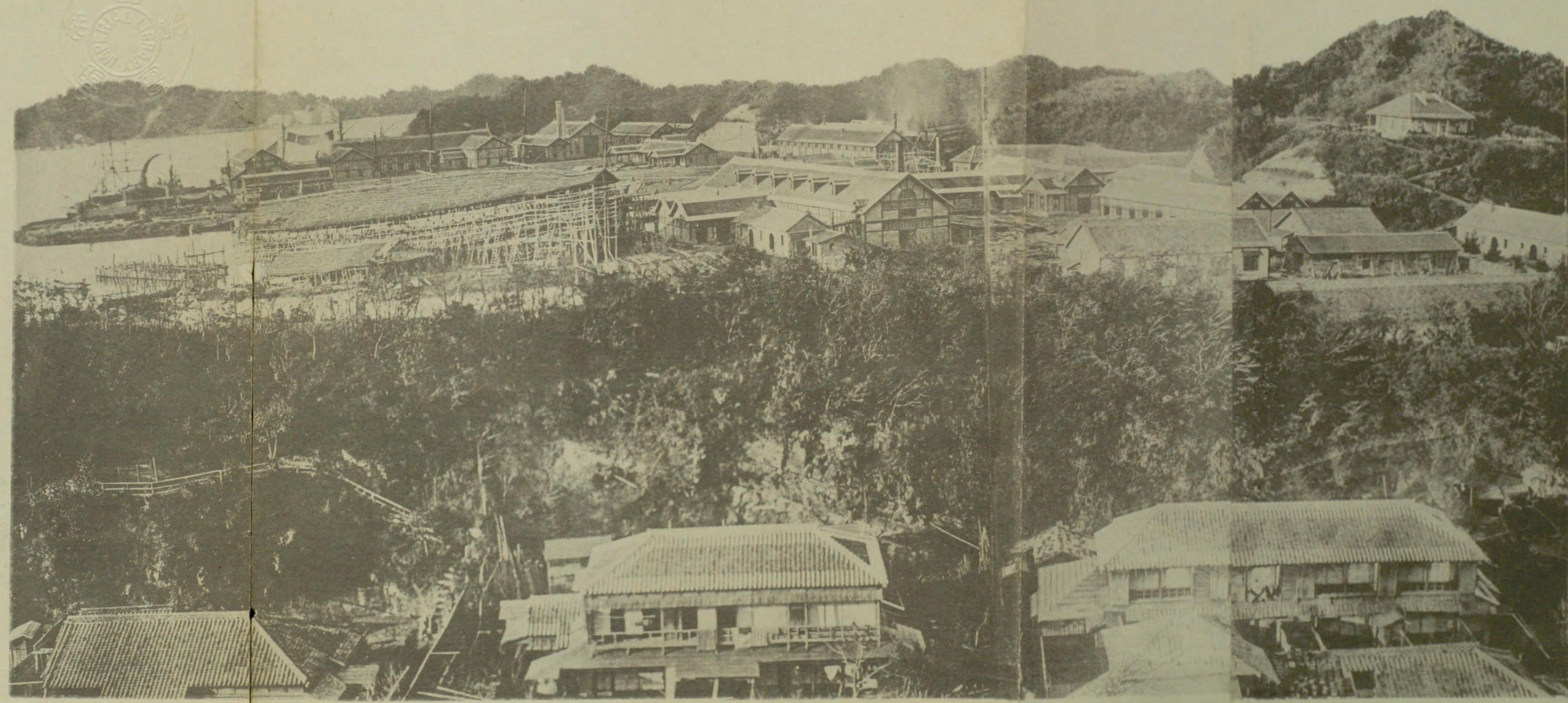


（明　治　八



（明　治　八　年）





（明　治　八　年）

大正四年九月二十四日印刷
大正四年九月二十七日發行

横須賀海軍工廠

印刷者　東京市牛込區南榎町四十七番地　松藤秀夫

印刷所　東京市神田區宮本町五番地　中正社

224
207

昭和五年二月十日發行
昭和五年二月九日印刷

陸軍工廠賃金統計

東京市牛込區若松町十四番地
大日本印刷株式會社
東京市麻布區本村町
中江印刷所

224
207